

## 2021年度 恵の実っ子クラブ 事業報告書

### 1、理念

ひとり一人の意欲を大切に、たくましく、かしこく、やさしく育つ事を願いながら、発達の弱さをもつ子どもも含め、0歳から学童、大人までを共に育ちあう共同の子育てを目指します。

### 2、2021年度の保育目標

子育てを通し、職員と親が共に学び合う

### 3、入所人数 27名

### 4、職員体制

所長 1名  
指導員 1名 非常勤 1名  
事務員 1名  
\*他事業所との兼務あり

### 5、保護者支援

学年会、面談、学習会 等

### 6、苦情、大きな事故等の発生

事故：小刀使用中に左腿切創（1年生）

今後の対策：初めて小刀を使用する1年生は親子参加にし、職員は全体的見守りに徹する。椅子に座っての作業であったが、今後は机も使用し手を支えられるような状況で行う。

事故：学童プールでの飛び込みによる頸部挫傷（職員）

今後の対策：準備運動をしっかり行い、水量を確認した上で飛び込むか止めるかを判断する。基本的に大人は飛び込み台からは飛び込まない。

・苦情なし

### 7、安全管理

- ・火災を想定した避難訓練実施（4月16日）
- ・職員の安全対策管理として、学童親の会主催の救命救急講習に参加し、現役消防士によるファーストエイドについての講習と、保護者の方々と海合宿を想定したシミュレーションで救助の方法を学び、活動の安全性を高めるよう努めた。
- ・地震による火災を想定した避難訓練実施（12月20日）
- ・火災を想定した避難訓練実施（3月11日）
- ・スキー合宿における新型コロナウイルスの感染対策マニュアルを改定し、保護者と共有した。

### 8、研修

- ・東海地区職員学習会に参加し、他の学童クラブと現状を報告し合い、保護者との情報共有や学習の取り組み方について学びあった。
- ・自主研修「“思春期” リスクテイクの人類戦略」（NHK ヒューマニエンス～40億年のたくらみ～より）
- ・全国保育実践交流連絡会主催の冬の講演会にて広木克之氏の講演「個と集団」を学習した。
- ・桜ヶ丘高校の高橋先生をお招きし、平和学習を行った。（6年生保護者主催）

## 9、児童の処遇について

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策として、来所時に検温し日々の健康状態を確認した。
- ・施設内消毒を行い、ウイルスの飛散防止に努めた。
- ・水遊びの時期には、体温、健康状態を把握し事故防止にあたった。

## 10、活動報告

4月	いちご狩り、笛掘り
5月	春登山（湖西連峰～葦毛湿原）、冒険旅行（南知多グリーンバレイなど）
6月	ホテル観賞、初夏登山（明神山）、小刀教室
7月	プール遊び、白川を愛する会草取り、海合宿、自然合宿
8月	平和学習（豊川海軍工廠見学）、学童夏祭り 等
9月	白川を愛する会草取り、夏登山（硫黄岳）
10月	運動会、秋登山（霧ヶ峰）
11月	リズム講座、草笛コンサート
12月	リース作り、クリスマス会、冒険旅行
1月	スキー合宿（4～6年生）、日帰りスキー（1、2年生）
2月	スキー合宿（1～3年生）、平和学習、お楽しみ会
3月	6年生を送る会、卒所式、卒所旅行

## 11、分析

- ・新型コロナウイルスの感染状況と情勢を鑑みつつ、感染予防対策を行いながら活動を行った。
- ・海合宿は一昨年度と同じ福井県敦賀市の手の浦海岸で行った。観光バスの費用高騰とコロナ禍におけるリスク低減から、保護者の実行委員会とも話し合いを重ね、例年は2泊3日で行っていたところを1泊2日で行った。日数を減らしたことで活動内容や行程を検討し、海合宿の意義を改めて確認する機会となった。
- ・夏休みには鳳来にある旧門谷小にて8泊9日の合宿を行い、高学年が班長となり、1～6年生が縦割り班で生活した。親元から離れ、炊事、洗濯、掃除などを協力して行い、時には喧嘩をして、仲間同士の絆が深まる機会となった。自然豊かな環境で、テレビやゲームが無いだけで、とても生き生きとし、やりたいことに目を輝かせてとりくむ子が多くいたことが印象的であった。
- ・海や山などの自然体験活動だけでなく、子ども達が自分達のやりたいことを仲間と相談し、冒険旅行（主に2年生以上）や学童夏祭りなどを行い、各学年で計画を立て実現する経験から子ども達が手応えを感じる活動を保障し、横の絆を深めることも大切にしたい。
- ・三役会、代表者会（ともに親の会）を随時行い、職員と連携を図って保育してきた。
- ・親の会主催による水・山の安全学習や救命学習会が行われ、園児世帯も含めた学習会として保護者が主体的に計画し、実行し運営する機会となった。
- ・今年度も白川を愛する会の草取りに参加させて頂いた。事前に代表の方にお越し頂き、活動の取り組みや白川の歴史についてお話いただき、草取りに参加する意義を学び、地域社会に貢献する機会となった。今後も継続的に参加していきたい。
- ・運動会は昨年度の「生活競技」の内容を“火起こし”と“魚を焼くこと”にフォーカスしたことで、子ども達にとっても班の仲間と協力するために何をしたらいいかが明確だった様子。

- ・秋の霧ヶ峰登山は低学年が登った。夏休み中に予定していた白馬登山が新型コロナウイルスの感染拡大により、何度かのスケジュール変更の末実施できた。
- ・今年度のリズム講座でも後半は学童の子ども達主催のスポーツレクリエーションを実施。
- ・各スキー合宿も感染状況に注視しながら実施。1～3年生スキー合宿は感染拡大により日程を変更してなんとかシーズン中に実施できた。合宿中も感染予防対策を入念に行いつつ、子ども達はスキーや雪遊びを満喫した。
- ・1月に沖縄平和の旅（6年生）を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止。その代わりに、3月21～22日、6年生親子で長野県の松代大本営と無言館などを訪れ、自主的に平和学習を実施して下さった。
- ・2月の祝日を利用し、OBOGを招き、スポーツレクリエーション（お楽しみ会）を実施。しっぽ取りやドッジボールを楽しんだ。
- ・今年度も1月より太鼓の練習を行い、卒所式に向け取り組んだ。
- ・3月29日より3泊4日で卒所旅行（高学年、自転車の旅）を実施。名古屋市のジャンプラボを経由し、犬山城を目指した。途中、桜まつりを楽しんだりしながら、全員で“協力”して完走することができた。

## 12、次年度に向けて

- ・登山や卒所旅行などで体力のない子が目立つようになってきた。全学年、リズムを定期的実施し、赤塚山公園などで集団遊びを行うなど日常の中で体力がつく活動を行う。
- ・1～4年生を中心に読み聞かせも定期的に行い、物事を論理的に考える力をつける。また、感想を共有することで“自分の意見”を仲間に伝え、“仲間の意見”を知ることで共感したり、お互いを知る機会を作る。
- ・低学年会、中学年会からも高学年会へ意見を伝え、それを元に高学年会で話し合ったことを下に伝えるという取り組みを行い、お互いが意見を言い合って生活を作り上げるんだという意識を培っていく。
- ・保護者の方と行う学年会では、子ども達の様子を伝えるだけでなく、その姿をどう捉えるか、ということ学習の根幹とし、定期的（2ヶ月に1度を目安）に共有できる場を設けていく。